

奈弓連だより

通巻 191号

平成 30 年 1 月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 土谷尚敬 野尻賢司

会長年頭所感

若い人達の柔軟な発想を生かせる環境を造りたい

奈良県弓道連盟 会長 西中 正



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には良い新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

1月7日の、新年射初会には168名の会員が参加し、今年1年の発展を願って祝射をしていただきました。ありがとうございました。

去年は、競技会関係では、第1回都道府県対抗弓道大会が行われました。愛媛国体は夏開催で実施されました。それに伴い、国体近畿ブロック大会が1カ月早く実施されるなど、年間行事日程が例年と変わり調整の難しい年でした。講習会関係では、日体協スポーツ指導員資格取得のための講習会を実施。また本年度から本格的に実施されます全日本弓道連盟公認資格認定制度に向けての講習会も開催しました。過密な日程を皆様のご協力で進める事が出来ました。

今年度は、役員改選の年で、射初会の後、臨時評議員会が開催され、規約第9条に基づき、名誉会長、名誉副会長、会長、副会長の再選が2年間の任期で決定されました。逐次、連盟の運営に努めていきますが、3期目の主要な課題として、会員の高齢化が進むなか、次のことに取り組む所存

です。

1点目は、全日本弓道連盟が大きく変わろうとしています。奈良県弓道連盟も5年先、10年先を見据えて称号、段位にこだわらず、若い人達の柔軟な発想を生かせる環境を造りたいと思っています。2点目は、全日本弓道連盟が推奨している冬期間の寒冷対策、夏の熱中症対策の実施です。さらに健康で楽しく弓道ができるような対策を考えるべく、県内で医・科学委員会を立ち上げます。講習会等勉強できる場ができればと思っています。委員についての人選は、早急にきめていきます。

今年4月24・25日に世界弓道大会が日本で開催されます。23日にはレセプションパーティーが国立オリンピック記念青少年総合センターであります。個人戦には初段以上であれば、中学生、高校生、大学生、誰でも申し込めます。次回日本開催は8年後です。折角の機会ですから、24カ国から選手が集まる世界大会に奮って参加し、他国の選手たちと交流されることを期待します。

最後になりましたが、この1年皆様が健康で、弓道において、一層進歩を遂げられることを祈念します。

奈良県弓道連盟 新年射初会開催 168名が参加し、更なる発展を願って祝射

1月7日奈良県弓道連盟の新年射初会を開催しました。西中正会長の矢渡し（第一介添：吉本清巳、第二介添：藤岡順）の後、昨年中央審査、連合審査で五段～七段、錬士、教士に合格された方々の演武が行われました。その後、168名の参加者が各四射を射初めとしました。支部・地区対抗戦は1位樞原支部（30中）、2位奈良支部（27中）、3位県医大となりました。

射初会の後、臨時評議員会を開催し、奈良弓道連盟新役員を決定するとともに、会費値上げについて審議され原案どおり可決されました。（事務局）

大和神社御弓始祭 五穀豊穰・平安を祈り行射

新春恒例の天理市の大和（おおやまと）神社の御弓始祭が1月4日に行われました。この行事は、昭和26年ころから奈良県弓道連盟が奉仕しており、お宮の伝統行事として広く知られております。当日は、天候にも恵まれ、神事後、五穀豊穰・平安を祈り行射されました。

最初に、臺目の式と呼ばれる鏑矢でもって魔を祓う行事で、今年の射手は女性としては初めての深田紀美子副会長が務め、白の水干衣装で厳かに執行されました。続いて、宮司が一手を引かれ、年預さんと呼ばれ

るお宮の役員さんが3名、袴の衣装で一手ずつ大的に向かい、見事的中されました。

その後、天理南中学校の弓道部員の10名が、2人ずつ大的に向かい家族や学校関係者から声援を受けながら的中を重ね、的裏に潜む魔性退散に努め、無事執行されました。最後に、県弓道連盟の会員で男子5名、女子5名の射手を含め総勢26名で百手式が執行されました。直会では、ごまめ等正月料理、弁当、ぜんざいをいただき年のはじめをお祝いしました。

百手式をはじめ古式弓道は、足さばきなど現在弓道と異なるところも多く、すぐにでも出来るとは限りません。射手を務めるには、場の流れ、所作の方法等経験が必要になってきます。興味のある方は、是非参加していただき、伝統行事を引き継いでいただきたいと思ひます。



蕨目の式で女性として初めて射手を務めた深田紀美子副会長。因みに、蕨目とは矢の先に付けた蕨目鐙のことで、木を挽いて削るので引目、またはその形が蛙(蕨蛙)に似たところから蕨目とも言われています。この矢は射放つと風を切り、音を発するため、それによって魔障を退散させるものとして古来より現在に伝わっています。



大和神社本殿前で勢ぞろいした奉納者たち
(奈良県弓道連盟 副会長 新司正人)

布目弓道場108中射会

支部、地連の垣根を超えて、18名で108中に挑む

布目弓道場英明館にて12月31日、恒例の108中射会が開催されました。この射会は毎年大晦日に開催され、今回で22回目を迎えます。矢振りて立順を決めた後は順次、一手行射を行い、全員で合計108本中たるまで引き続ける行事です。今回は各支部、地連から18名で108中に挑みました。



108中賞を射止め、喜びの山崎一郎さん

表彰は「108中賞」の他、107本目にあたる「アシスト賞」と、54本目にあたる「真ん中賞」が準備されました。的中数が80本を超えたあたりから一本ずつの行射になり、全員平等に108中賞のチャンスが巡るよう、工夫されています。各自、それぞれの煩惱を打ち払うべく(あるいは煩惱を増やしながらか)、真剣な空気の中にも和気あいあいとした雰囲気、射会は進みました。結果は次の通りです。

108中賞 : 山崎一郎
アシスト賞 : 古田博規
真ん中賞 : 山崎一郎
最多的中賞 : 藤岡順

射会の後には恒例の懇親会があり、年越しそばとおでんを頂きました(眞鍋さん、毎年のご準備ありがとうございます)。毎年、この場でしかお会いできない方もおられ、1年分の旧交を温めることができました。吉本先生いわく、「108本目の中てられた方にはいい事が起こる」というジンクスがあるそうです。参加された事のない方も、次回からは是非、一緒にチャレンジしましょう。

(東京都弓道連盟第三地区 古田博規)

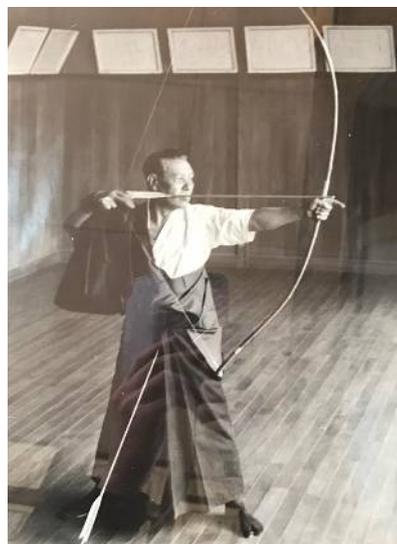
「カッコいい」先生へのあこがれから

奈良県弓道連盟理事長 教士六段 阪中計夫

「カッコ」よかった二人の先生へのあこがれ

私の弓道は、大阪府立大学入学の時から始まります。大学に入って、なんかやってみようかという程度の軽い動機で始めたのが弓道との出会いです。弓道部入部が遅く5月後半だったと思います。主将から「今までなにやってた」と言われ、「1年生の中で差がついているけど、やっていけるか」という状況でのスタートでした。まだまだ弓の何なのかもわからない状況でしたが、1年生のとき二人の先生が「カッコよく」思えて、わけもなくあこがれたものでした。

1人目は、弓道部師範の千島基嗣先生です。道場に



来られた時は、大きな声が響き渡ります。先生が話し始めると同時に、先輩たちがその場に正座します。1年生の私にとってコワイ先生という印象でしたが、いつも和服と袴姿、寒いときはマントを羽織り、カッコよく思えたダンディな先生でした。

2人目は、私たちも指導をいただいた森川勝先生です。大学が堺市にありましたので、毎年1月2日の百舌鳥八幡宮での神事のお手伝いをしていました。その時に初めて森川先生を拝見しましたが、お身体に比して大きな射をされていて、8射皆中という結果も手伝ってか、「カッコいい」先生というのが第一印象でした。



ある府連の審査の時に、高津弓道場で森川先生がおられました。休憩中に受審者が集まっているところに来られ、「参段を受けるのに、弓返りもしないものがある。」と受審者に対して叱り、コワイ印象をもったことも記憶から離れません。お二人ともコワさとカッコよさがありました。

県連でも、称号者研修会で指導いただいたことは記憶に新しいところです。

私を変えた二つの事柄

大学弓道から一般に入り、その中で私に大きな変化をもたらせた二つのことがあります。初心者教室のお手伝いを始めたことと、国体監督になったことです。

昭和60年に錬士を頂いたのですが、ちょうど白樺中学校での橿原市の初心者弓道教室が開講する前で、昆布先生から「錬士になったので手伝いなさい」とお話をもらいました。初心者とはいえ、一般の方への指導です。間違っていたことが言えないプレッシャーから、このころから弓道教本をまともに読み始めたのだと思います。また範を示すとき、正しい運びで示す必要がありますので、この積み重ねが私の体配をつくる上で一つの支えになったと思っています。

もう一つの国体のほうですが、私が初めて監督になったのは、吉本先生が強化部長になられた時で、現場に入るとさらに高度なことに出会ってしまいました。吉本先生は、ただ的中させるだけではなく、いかにすれば3人の流れが美しく見えるか、また12本の矢を一つのチェーンのようにしてチーム力を集中させるか、というテーマを持っておられ、これまでの的中競技の概念を変えるくらいの先進的なチームづくりに出会いました。

この二つの出来事は、今の私の弓の土台づくりに大きな影響を与えたと感じています。

正しい体づくりと「カッコいい」弓引きにむけて

学生時代は適当に的中もありましたが、中りだけの弓に戻りたくないという思いで、今日まで来ました。しかし一度捨てた的中は、なかなか戻りません。つまり手先の力ではなく、きちんと身体を使おうとすると、まだまだ不十分どころが多く、体の使いかたや呼吸との連動などを、早い時期に意識をもって、正しい体づくりをしていくことが大事かと、今更ながら思います。当然、結果としての的中にもつながらないといけません。

人生80余年とすれば、あと20年。今の私にできることは、このことを伝えながら老化に抵抗して引き続けることだと思っています。私もカッコよくなれないといけませんので。

全国高等学校弓道選抜大会 吉村実紗選手(畝傍高校)が決勝進出

12月24日～26日に第36回全国高等学校弓道選抜大会がウカルちゃんアリーナ(滋賀県立体育館)特設弓道場で開催されました。

吉村実紗(畝傍高校)選手は決勝まで進みましたが、入賞を果たすことができませんでした。また団体戦は男女とも予選通過することができませんでした。

奈良県代表の結果は次の通りです。

個人戦 予選 (各自4射3中以上通過)

女子

吉田 智美(平城高校) 1中

吉村 実紗(畝傍高校) 3中(通過)

男子

新野 竜也(郡山高校) 1中

足立 拓馬(平城高校) 3中(通過)

個人戦 準決勝 (各自4射3中以上通過)

吉村 実紗 3中(通過)

足立 拓馬 1中

個人戦 決勝射括

吉村 実紗 ○×

団体戦 予選

(各自4射各校12射・16校が予選通過)

女子

五條高校 (高西 美紗貴・柿谷 知宥
新田 美折・米永 仁那)

6中で予選敗退



ウカルちゃんアリーナ(滋賀県立体育館)

男子

西の京高校 (山本 康平・清水 淳矢
花田 光輝・一ノ瀬歩夢)

7中で予選敗退

(高体連 藤村 佳照)

中学冬季強化練習会に参加して 熱心にご指導いただきありがとうございました

今回参加させていただいた冬季強化練習会では、たくさん先生方に体配を中心に指導していただきとても良い経験になりました。細かいところまで丁寧に見ていただいたので、それを審査に生かせるようにしたいと思います。また、先生のお話の中で「高い目標を持って練習に取り組んで行かないといけない」ということがとても心に残りました。5日間の練習で教わったことを八木中の弓道部員にも伝えて、日々の練習に生かしていきます。寒い中熱心にご指導いただいた先生方、本当にありがとうございました。



(八木中学校 升木、細井、岩永、鈴木)

編 | 集 | 後 | 記

新年、明けましておめでとうございます。

年頭所感で会長が示された「若い人達の柔軟な発想を生かせる環境を造りたい」という方針、素晴らしいと思います。高齢者が社会でまだまだ頑張っていますが、将来を築くのは若い人達ですから、その人達の意見は大切です。斬新な発言、提案に期待したいですね。

本年も皆様の活躍を伝えるよう努めます。どしどしニュース・写真を送ってください。またこの「奈弓連だより」は奈弓連のホームページよりダウンロードできますから、是非ご利用ください。

編集担当 野尻賢司